



# 小林よしのり著 『戦争論』は、どう 読まれているのか



「新しい歴史教科書をつくる会」が作成した中学校歴史教科書が大きな問題になっている。日本の「自虐史觀」を糾すという「つくる会」の宣伝マンが、かの小林よしのり。何だかんだと批判されながら、若者たちでは根強い人気を維持している。何が若い人々をひきつけているのか、小林の「戦争論」についての率直な感想を二人の若者たちに書いてもらつた。(見出 編集部)

はじめに一確かにちよつと 救われた気がしました。なぜつて? だつて日本人は極悪 非道つて言われつづけてきた し、反対のこと言わることは なかつたじやないです。

この本のすべてが正しいと はとうてい思つていません が、少なくとも日本人だけが 悪という図式をもつと外側からも調べたほうがいいんじや ないか? という気分になります。

「こんなにひどいんですよ」 かもしだれないと感じるのが正 読むと、少しでも反論できるの ます。

「つくる会」の本には、確かに おかいななど感じます。事実は 际、自分たちがそんな残酷なこ とを思いつかないので、確かに 残酷であつたと結論付ける。実

際

に載り、事実であるなら載つた

ですが、私には知識がありませ

ん。今まで、南京大虐殺も教科

書に載り、従軍慰安婦も教科書

に載り、事実であるなら載つた

のですが、軍がさらつてくる

はあつたのではないかと思つ

ていますが、軍がさらつてくる

ほうがよい、と考えて来まし

た。今でも従軍慰安婦が強制的

にさらわれてきたという事実

しかし、この本はひどい。考

え方のちがう人を絵を使って

います。

しかし、この本はひどい。考